



子どもの皮膚は大人の 1/2 のほどの厚さで、とても繊細です。汗や涙、食べこぼし、よだれ、衣服の擦れなどのちょっとした刺激に対しても敏感に反応します。

暑さが厳しくなるこれからの季節、あせも、日焼け、水いぼ、虫刺されなどの皮膚トラブルを起こしやすくなる環境にあります。発疹は症状が似ていて見分けがつきにくいので正確な診断が必要です。

判断のポイント

まずは子どもの全身を観察。皮膚以外の症状の有無、機嫌や食欲の様子など、情報を集めてから受診する。

診療時間内に受診

- かゆみが強い、ひっかく
- 発疹が全身に広がっている
- 水ぶくれがある
- ほかの症状をとまなう



(発熱、頭痛、吐き気、首のリンパ節のはれ、せき、下痢、目の充血、口内炎)

急いで受診

- ぜんそくのような「ヒューヒュー」「ゼイゼイ」という音がする
- 高熱があり、かなりぐったりしている

発疹とぜんそくのセットは危険

全身の発疹といっしょに、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」というぜんそくのような呼吸をしているときは危険。アナフラシキーという重大なアレルギーを起こしている可能性がある。救急車を呼ぼう。



* 引用文献

片岡正(かたおか小児科クリニック院長) 2011年『小児科の上手なかかり方がわかる本』講談社

症状から考えられる疾患

* 皮膚症状が強い場合でも感染症の可能性もあるのでまずは小児科を受診することをおすすめします。

- ・アトピー性皮膚炎
- ・突発性発疹
- ・手足口病
- ・带状疱疹
- ・溶連菌感染症
- ・伝染性膿痂疹(とびひ)
- ・伝染性軟属腫(水いぼ)
- ・虫刺されの悪化による炎症(蜂窩織炎)ほうかしきえん など

* 「病児保育マニュアル Vol.2」参照

あせもやおむつかぶれは、清潔にし乾燥させて刺激を与えないようにケアしましょう。



シャワーや濡れタオルで汚れや汗を流す。



オムツは清潔に。



ノースリーブより脇の下の汗を吸う袖付き綿素材のものが良い。



冷房を適度に利用して快適な環境を。

★基本的には急いで受診する必要はありませんが、自己判断で市販薬を使用すると悪化してしまう恐れがあります。改善が見られない場合は医師の診断を受けることをおすすめします。